



Promis

神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート
Research Institute for Promoting Intercultural Studies, Kobe University

占領期の史料を読む

占領期の日本には、公的・私的、またその中間的な性格をもつ多様な史料が残されている。私的史料は発掘や保管が課題となり、公的史料であっても未検討のまま詳細が明らかでないものが少なくない。近年は地方で占領に関する史料を読み直す試みが進み、史料の性格を見極めつつ戦後史へと位置づける作業が蓄積されつつある。本セミナーでは「占領期の史料を読む」という大きな枠組みのもと、宗教法人金光教が保有する史料と、厚生省研究員が残した史料を取り上げる。これらの史料へのアクセス手続き、解説・公開の方法、そしてそれらが戦後史をどのように捉え直し得るのかを考える。

日時：2025年12月1日（月）14:00～15:00

場所：神戸大学鶴甲第一キャンパスE410

オンライン（ZOOM）：



講演者

Heather Heimbach

プリンストン大学宗教学部アジア宗教学分野の博士課程学生で、現在は客員協力研究員として神戸大学国際文化学研究推進インスティテュートに所属している。20世紀日本の新宗教運動に関心を持ち、特に大日本帝国下で宗派神道として登録された金光教の歴史を手がかりに、戦時中から占領期の宗教状況の解明を目指している。

松元 実環

神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート学術研究員。戦後日本の性教育・純潔教育や人口政策を対象に、身体がどのように語られ、指導、管理されてきたのかを史料から検討している。厚生省資料やGHQ関連文書、教育フィルムなど多様な史料を用いて、戦後期の身体観や教育実践のあり方を明らかにする研究を行っている。

問い合わせ：松元実環（matsumotomiwa1@gmail.com）